# NBK関工園 MEMEセンター&元気亭

# NBK Genki-tei and MEME center

# Small complex with a wood and steel composite structure

受賞：1998年中部建築賞 / 第五回岐阜県21世紀ふるさとづくり芸術賞優秀賞

所在地：岐阜県関市

用途：事務所・福利厚生施設

構造設計：TIS&PARTNERS

# 設備設計：総合設備計画

構造規模：鉄、木造、RC壁の複合構造2階建

敷地面積：71,876.5

建築面積：342.25

延べ床面積：395.83

施工：土本建設

竣工：1997.3

　「メメセンター・元気亭」の設計のテーマは、この小さな建築のなかに、いかに多様なレベルで形態的、空間的対立を織り込むことができるかであった。それは、 機能の違いに応じて建築形態も分節しそれ相応の形を与えようということなのだが、同時に部分の構造は全体の構造に相似であるべきであり、どのレベルの部分も多様性をもつべきだと考えるからである。これを今回のプロジェクトで言えば、「メメセンター・元気亭」という全体に対しては棟は部分であり、「メメセンター・元気亭」は関工園の部分であり、関工園はもっと大きなランドスケープの一部である。そして、ランドスケープも関工園も、多様であるべきであり、その様に「メメセンター・元気亭」も多様でなければならないというわけである。つまり、一種のフラクタル的部分と全体の関係を構想している。

この建物はプログラムの上で複合的である。つまり工場での生産管理のための事務施設とアスレティックジムおよびその関連諸室という相互に関連の薄いプログラムからなる。それに対して、建築形態は、ガラス張りの二棟と型枠コンクリートブロック造を主体とする棟（以降ＣＢ棟）の三棟（ガラス棟の１つは事務室に充てられ、他方がアスレティックジムである。ＣＢ棟の１階はアスレティックのための更衣室、２階部分は娯楽室もう少し正確に言えば麻雀室）からなる。これらの棟の間にＬ字型の中庭を挟み込み強く分節している。

今回の設計では、棟に分割するだけでなく、それにさまざまな形態的対立を織り込むことをしている。まず、鉄骨による骨組み構造／コンクリートブロックによる壁式という構造方式の対立があり、それは被膜性／構築性の対立と重なり、同時に工業的／住宅的の対立でもある。ガラス棟の皮膜性は、Ｈ型鋼の柱にサッシの方建てを兼ねさせ、柱と梁の剛接合の交差部を開放することにより、柱を消去し構築性を弱める（文字通りの無柱空間）ことで得られている。ガラス棟とＣＢ棟の間には開放的／閉鎖的という空間の対立もあるのだが閉鎖的なＣＢ棟のなかでは、１階の壁的構築性と２階のテントのように張られた鉄骨フレームの被膜性が対立して、入れ子状になっている。一方、ガラス棟のジム棟と事務棟は同じ構造形式をもつが塗装色においては、黒／白の対立がある。

これらの幾重にも重ねられた形態の対立は、場所に様々な性格を与え、使う人が多様な意味の発見を約束することを期待している。

メメセンター・元気亭2

複雑性を持った部分からなる全体を求めて----メメセンター・元気亭-----

建築群の文脈

「メメセンター・元気亭」は６年前にわたくしたちが設計にかかわった「事務棟・ホール棟」と同じ敷地内にあり、工場での生産管理のための事務施設とアスレティックジムおよびその関連諸室との小さな複合施設である。当然のことながら、新しい建物をどのように工場の建築群のなかに位置付け、それを６年前の「事務棟・ホール棟」と関係付けるかを大いに意識した。

そのために、「事務棟・ホール棟」で用いた形態操作の幾つかを新しい建物にも加えた。それにより、この工場敷地のなかの建築群に、ある種の形態の文脈を作ろうと考えた。そのひとつは要求される機能を一つの棟に納めるのではなく、明確に性格付けられた複数の棟の集合として構成したことである。二つめは地形を意識し、周辺の風景に反応するようにしたことである。この結果は、独特の開口のパターンと傾斜した床や屋根スラブとして実現している。３つ目は、両者とも部分的に平面形に円形の幾何学を用いたことである。「事務棟・ホール棟」のホールの円筒、社員食堂の西側の１／２円の窪んだ庭、そして「元気亭」の型枠コンクリートブロックによる３／４円がそれであり、これらは、厚生施設に対応している。「丸い形は厚生施設である」というローカルな記号的関係が成立することを期待している。

４つ目は、両者の建築のマッス構成の要となっている白い壁である。これを、工場全体の配置の中で見れば、敷地の両端で対峙しており、それによって工場の境界をゆるやかに画し、領域を張っている。

インフォーマルなパビリオン

勿論、両者には違いもある。それは主にプログラムと工場内の位置の違いによっている。両者とも敷地の端にあるのだが、「事務棟・ホール棟」は敷地へのアプローチ側で台地の端にあり、「メメセンター・元気亭」は敷地の一番奥で山の裾に接する場所に位置する。つまり前者は外部との境界にあり、来客を迎え、地形のレベル差も大きいので、フォーマルで、特にアプローチ側から眺めたとき堅固でダイナミックな構えが与えられた。一方、後者は内奥で、地形の勾配もわずかなであり、出入りは社員に限られているため、インフォーマルなパビリオンとでもいうべき性格に収斂していった。

インフォーマルな性格は、主に住宅的な材料選択によって表現されている。具体的には、構造、仕上げの両面で積極的に用いた木材、型枠コンクリートブロックや漆喰壁などの住宅的スケール感と質感をもった材料の使用である。パビリオン的性格は配置と空間の透明性が関連している。透明性とは、具体的には構内から建物のなかで人々が働く様子が伺える、建物を通して向こうの緑を透かす、建物を通して別の建物が見えるなどであり、物理的にはガラスの使用と各部位の扱いの軽さが関係している。例えば、ガラス棟の１ｍ間隔の柱にサッシの方立てを兼ねさせ、柱と梁の剛接合の交差部を開放することにより、支持体としての構築性を消そうとしている。同時に、このジョイント形態により、屋根端部が跳ね上がり、パラペット的な要素を省略する事が可能になり、これも軽さと透明感に繋がっている。

対立する形態要素

しかし、この建物の設計の真のテーマは、積極的に対立する形態要素を導き入れ、いかに多様な場を用意できるかにあり、誤解を恐れずに言えば、軽く透明だとか住宅的だということは二次的なことでさえある。例えば、この建物には鉄骨による骨組み構造／壁式のコンクリートブロック造という対立がある。この対立は構造方式に留まらず、被膜的／構築的の対立にも、工業的／住宅的にもなっている。ガラス棟とＣＢ棟の開放的／閉鎖的という空間の性格の対立もある。そしてまた閉鎖的なＣＢ棟のなかにも、１階の壁構造と２階のテントのように張られた鉄骨フレームが構築的／被膜的という対立を作り出している。色彩における白／黒の対立もある。こうした材料、構造、空間の属性の対立に加え、一つの棟にしないで細かく分棟にし、その間に、Ｌ字型の中庭をとり込んでいることもまたこの建物の複雑さを高めている。

何故複雑であらねばならないのか。それはこのわずか４００平方メートルあまりの領域のなかにさえも、幾つかの性格を持った場所を持つべきだと考えたからに他ならない。それは、この建物だけの問題として考えたのではなく、むしろ どのスケールで「部分」を取り出しても（例えば棟、プロジェクトの単位、工場体・・・・）、当の部分がそれなりに多様な場所の選択肢を提供し、より大きな全体（これも多様な選択肢を提供することになる）の形成に参加するという一種のフラクタル的、つまり部分と全体が相似になるような部分と全体の関係を思い描いているからである。大きな全体のなかに位置付けられた部分的な役割を演ずるだけの部分ではなく、どんな部分にも一つの宇宙が感じられるながらも、しかし自足することなく、より大きな全体と原理を共有することによって繋がってゆく、そんな関係があっても良いのではないか。そういう環境の連続性をあり方を探りたいと考えている

メメセンター・元気亭 3

この建物の主要用途は機械部品メーカーの工場の管理事務所であるが、多目的ホールを付帯していることによって特徴付けられている。この設計のテーマは、建築物を地形あるいは風景に介入させることで、それらが持っている潜在する力を引き出し、更に新たな秩序と魅力をつくり出すことである（「ランドスケープアーキテクチュア」）。また

、住宅的スケールと空間構成を与えることで、賃貸事務所ビルによって定型化し陳腐化してしまった現代のオフィス空間を「気持ち良く働く場所」という事務所建築の原点に引き戻すことを試みている。

This small office coposed from administration office for the machine producting factory ,dinning for emplyees and multi-purpose auditorium. The main theme for the design of this complex was LANDSCAPE ARCHITECTURE" which respect potential quality in the landscape and topology of site and its suroundings.Architect also

try to pull back the office into the comfortable place to work in terms of giving domestick scale to this architecture.site area 71,876 m2，building area 1,475

m2，Total floor area 2,023 m2，2 storeys with 1storey basement,Reignforced concrete structure with steel roof structure